

「三年間の青い春」 利尻町立利尻中学校3年 松坂 日向

あっという間に流れた3年の月日。気が付けば卒業まで半年もなかった。

今まで関わってきた沢山の人ののおかげで楽しい三年間を過ごせた。

大人の方たちの話を聞くと、「中学時代は楽しんだ方がいいよ」や「あの時が一番楽しかった」などという話を聞く。やはり大半の人は中高生のころが青春時代だったと思う。学生の青春といえばやはり体育祭や学校祭などの大きな行事でしょう。僕は今回、学校祭をピックアップした。1年生の時の学校祭は、寿限無を題材にした劇をやった。しかし、やはり初めての学校祭ということもあり、なかなか納得のいく結果にはならなかった。しかし今ではこれも思い出の一つである。2年生の時は24時間テレビのオマージュ、24分間テレビをやった。これは1年生の時とは打って変わって、自分たちでも驚く仕上がりになった。3年生になった今回の作品は金曜ロードショーとミニオンをオマージュした作品を作った。今の1、2年生の作品を超えられるか、自分たちの2年生の作品を超えられるかというプレッシャーを感じつつ練習していると、一難去ってまた一難、今度は学校外での練習が禁止となった。去年は休日も練習してやっとの思いで完成したのに、今回は練習が出来ず完成しないのではという緊張感も感じ始めていた。そのまま時間がたち総練習前日にライトも含め全体の流れが完成した。しかし全体通しは一回しかできずに総練習に臨む形となった。しかし細かいミスが少しある程度で総練習を終えることが出来た。僕は少し安心感を覚えた。だが安心してられるのもつかの間、まだこれは完成ではないからです。学校ではほとんど練習ができないためあとは各自家での自主練習となった。不安を抱きながらの本番だったが、みな家での練習をしっかりとっており、総練習での課題点を修正できていた。中学校生活最後の学校祭にふさわしい作品に仕上げられてとても嬉しかった。しかもこれは最初にお話した通り思い出の一つにすぎない。体育祭や部活動、当たり前な日常などたくさんの思い出を作ることが出来た。

このような楽しい時間を過ごすことが出来たのは学校の先生方や親、そしてたくさんの友達のおかげだ。本当に皆さんには感謝してもしきれないほどたくさんのかんじをしてもらった。これからは高校も違うところへ行く人も出てきてばらばらになってしまうけど、このような思い出を大切に、残り半年を過ごしていこうと思う。